

子ども・子育て支援事業計画(地域子ども・子育て支援事業)の修正

■ 利用者支援事業

		計画値及び実績値				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
量の見込み(ヶ所数)	(ヶ所)	1	1	1	2	2
確保方策	(ヶ所)	1	1	1	2	2
実績値	(ヶ所)	1	2	2		

・平成27年度に、子育て支援の助言や保育所等の入所相談などを受けていたを定型として位置づけて、事業を開始。平成28年度からは専任の保育コンシェルシ

・平成28年度に、妊産婦等の状況を把握し、妊娠期から子育て期までの相談・目行っていた窓口を母子保健型として位置づけて、母子保健コーディネーターを配業開始。

・事業形態が二つとなったため、計画上の量の見込みを「2」と修正。

資料3-1

口を特
ジュを配

カ言を
置して事

子ども・子育て支援事業計画(地域子ども・子育て支援事業)の修正

■ 一時預かり(幼稚園在園児)

			計画値及び実績値				
			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
量の見込み (年間延べ 利用人数)	不定期利用 (1号利用)	(人日)	4,619	4,537	4,486	5,040	5,580
	常時利用 (2号相当)	(人日)	37,393	18,368	0	65,520	72,540
確保方策		(人日)	42,012	22,905	4,486	70,560	78,120
実績値		(人日)	48,996	48,648	67,142		

【参考】施設数の実績及び計画値

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
施設数	20施設	32施設	38施設	44施設	48施設
補助対象 施設数	13施設	15施設	25施設	28施設	31施設

・当初は、幼稚園に通う「2号相当の児童」(注)が、2号認定を受けて、私立幼稚園から他の施設へ移動すると想定していた。

・私立幼稚園が認定こども園へ移行後、「2号相当の児童」は、2号認定ではなく、1号認定を受けて、一時預かりを利用している方が想定よりも多い。

・この傾向は今後も続くとみられるので、「量の見込み」と「確保方策」を修正する。

・数値の算出方法は以下のとおりとする。

- 不定期利用(1号利用) …… 3人×5日×施設数×12か月
- 常時利用(2号相当) …… 15人×13日間×施設数×12か月
- 確保方策 …… 10.5人×20日間×施設数×12か月

※1施設当たりの平均月間利用者数を元に算出

(注)…「2号相当の児童」とは、両親は働いているが、私立幼稚園に在園している児童。

子ども・子育て支援事業計画(地域子ども・子育て支援事業)の修正

■ 一時預かり事業

(一時預かり事業(在園児対象型を除く)、子育て援助活動支援(病児・緊急対策強化事業を除く)、子育て短期支援事業(トワイライトステイ))

		計画値及び実績値				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
量の見込み(年間延べ利用人数)	(人日)	13,243	12,881	12,581	14,548	
確保方策	一時預かり事業 (幼稚園在園児対象を除く)	(人日)	13,141	12,779	12,479	12,210
	子育て援助活動 支援事業 (ファミリー・サポート・ センター事業(病児・ 緊急対応強化事業 を除く))	(人日)	100	100	100	2,336
	子育て短期支援 事業 (トワイライトステイ)	(人日)	2	2	2	2

・確保方策に記載する、子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業(緊急対応強化事業を除く))の数字が間違っていた。

・表には、「ファミリー・サポート・センター事業(病児・緊急対応強化事業を除く)」の掲されなければならなかった。

・上記の理由により、平成30年度以降の「量の見込み」と「確保方策」の数値を修正

資料3-3

E

事業を除

平成31年度
14,149
11,858
2,289
2

事業(病児・

の数字が再

証する。